

NEWS RELEASE

2026 年 7 月 16 日
株式会社みずほ銀行

Noetra 株式会社への出資について

～フィジカル AI の基盤となる国産マルチモーダル基盤モデルの開発・社会実装を支援～

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、このたび、国産マルチモーダル基盤モデル^{※1}の研究開発を行うNoetra株式会社（代表取締役社長：丹波 廣寅、以下「Noetra」）との間で株式引受契約を締結し、出資（以下「本出資」）を行いました。本出資は、当行の「価値共創投資の枠組み」^{※2}を活用したものです。

生成 AI や AI エージェント等の技術進展により、AI は企業活動や社会インフラを支える基盤技術として重要性を増しています。機密情報・個人情報等の機微性の高いデータを活用しながら AI サービスを継続的に利用するためには、データ主権や経済安全保障の観点から、国内で開発・管理される国産 AI 基盤モデルの整備が重要です。なかでも、AI ロボット等が現実空間で自律的に判断・行動する「フィジカル AI」の実現には、テキスト・画像・動画・音声・センサー情報等の多様なデータを統合的に処理するマルチモーダルな基盤モデルの構築が不可欠であり、その国産化の早期実現は課題となっています。

Noetraは、こうした状況を踏まえ、国内企業44社^{※3}の参画のもと、国産マルチモーダル基盤モデルの研究開発を目的として設立された企業です。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）からの委託事業として、国立研究開発法人産業技術総合研究所や国内AI開発事業者等と連携し、フィジカルAIへの応用を見据えた研究開発を進めています。同社が開発する基盤モデルは、各業界・各企業が有するデータや業務知見を活用した領域特化・企業特化のAIモデル構築の基盤として、金融・製造・行政等の幅広い産業における活用が期待されています。

みずほ銀行は、本出資を通じて、国産マルチモーダル基盤モデルの開発段階から参画し、金融領域におけるユースケースの検討等を通じて、Noetraの取り組みを支援するとともに、幅広い顧客基盤を活かし、多様な産業における活用可能性の検討や、お客さまとの連携機会の創出にも取り組んでいきます。〈みずほ〉は、パーパス「ともに挑む。ともに実る。」のもと、次世代の社会インフラとなるAI領域におけるお客さまの挑戦を支援し、日本の産業競争力強化に向けた取り組みを進めていきます。

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

※1 国産マルチモーダル基盤モデル：

テキストにとどまらず、画像・動画・音声等のデジタルデータに加え、センサー情報や物理特性等の実空間データを統合的に処理する能力を持つ、国内で開発される幅広い用途のAIモデル。AIロボットやフィジカルAI等、現実空間で動作するAIへの応用を見据えた設計を特徴とし、各業界・各企業が有するデータや業務知見等を組み合わせることで、個別用途に応じたAI活用の基盤となることが期待されています。

※2 価値共創投資の枠組み：

社会課題への対応、新規需要の創出、新たな事業モデルの実現等を目指す事業に対し、みずほ銀行が戦略的に投資を行う枠組み。お客さまと機会とリスクを共有し、〈みずほ〉の金融・非金融の機能を活用することで、お客さまとともに社会的価値および経済的価値の共創を目指すものです。

2023年2月15日付プレスリリース：「価値共創に向けた取組みの強化について」

URL：https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20230215release_jp.pdf

※3 参画企業の詳細：

Noetraのプレスリリースをご参照（URL：<https://www.noetra.co.jp>）ください。

【Noetra 株式会社の概要】

会 社 名	Noetra 株式会社
本社所在地	東京都渋谷区渋谷二丁目 24 番 12 号
設 立	2026 年 1 月 7 日
代表取締役社長	丹波 廣寅
事 業 内 容	国産マルチモーダル基盤モデルの開発

以 上